

## 第 42 期第 5 回理事会議事録

日 時：2022 年 11 月 21 日（月） 13 時 00 分～15 時 30 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳曉典，荒川知子，池上雅明，稲津將，植田宏昭，榎本剛，齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹村俊彦，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，以上 15 名（理事数現在 20 名）

出席監事：鈴木靖，吉田聡

その他の出席者：勝山税，齋藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

### 議 題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入等について

新入会員 23，退会 6 を全会一致で承認した。2022 年 11 月 17 日現在，会員数 3,398 名で個人会員は 3,204 名。

##### 2) 第 42 期第 4 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

##### 3) 「中層大気・対流圏過程研究連絡会」の設置承認について

研究連絡会の設置について，全会一致で承認した。

#### 2. 報告事項

##### 1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

・ 11/11 に第 4 回 WG 会合を開催した。今年度中にあと 1 回開催予定。

・ 10 月号に理事会，「天気」編集委員会からのお知らせを掲載。

##### 2) 業務執行理事の報告

###### ① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・ 掲載許可

###### 1) 申請者：岡 秀一

掲載元：天気（2006 年）第 53 巻 773～784 ページ。力石國男・蓬田安弘。「十勝平野における北西強風の発生機構に関する考察」

掲載図：第 2 図 帯広の最大瞬間風速が 15～20m/s および 20m/s 以上の月別発生日数（1992～2001 年の平均値）

掲載先：

書籍名：「風よけの気候景観一人びとはどのように強風をしのいできたのか

ー」

著者名：岡秀一・青山高義・小川肇・梅本亨

出版社：古今書院

・後援名義等使用依頼受付

1) 名称：第7回 WEATHER-Eye オープンフォーラム

主催：気候影響防御技術コンソーシアム（略称：WEATHER-Eye コンソーシアム）

期日：2022年12月6日

会場：会場を使用しないオンライン形式

名義：後援

2) 名称：第60回アイソトープ・放射線研究発表会

主催：公益社団法人日本アイソトープ協会

期日：2023年7月頃

場所：東京都内会場またはオンライン開催

名義：後援

・寄附者リスト（2022.9.16～2022.11.20）

丹羽 洋介（一般寄附）100,000 円

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年9、10月分の収支及び現預金検査報告
- ・流動資金（運転資金）の月ごとの推移
- ・気象学史研究連絡会活動報告
- ・気象学史研究連絡会活動補助金申請
- ・夏季特別セミナー実施報告

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年度秋季大会の実施状況 大会委員長から大会成功に対する感謝と受賞記念講演のライブ配信の作業負荷が非常に重いとの意見があった。
- ・2023年度春季大会の準備状況 専門分科会は7件
- ・大会参加費改訂を検討中 参加料金を値上げし、割引料金を設置する案。

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 69 No. 10, 11, 12 (2022年10, 11, 12月) の掲載記事と、Vol. 70 No. 1, 2 (2023年1, 2月) の予定記事。

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 100 No. 6 (2022年12月) の掲載論文と、Vol. 101 No. 1 (2023年2月) の掲載予定論文。審査中の論文リスト。
- ・2022年気象集誌論文賞について1編を選定。

- ・投稿数がここ3年で相当数減っているため、投稿をお願いしたい。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

- ・論文の投稿・公開状況
- ・2022年9~10月の掲載論文：9編

松野賞・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年秋季大会受賞者5名
- ・予稿集投稿と同時にエントリーできるように規程を改訂することについて、全会一致で承認された。

学術・・・以下の内容が報告された。

- ・日本学術会議における「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に、気象学会からは「デジタルツイン」「航空機観測」の2件を出す。
- ・「日本の気象学の現状と展望」の更新について、目次案を作成。

地球環境・・・以下の内容が報告された。

- ・気候変動に関する知識普及について情報収集を目的に2023年度春季大会で専門分科会を開催予定。

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年度春季大会「専門分科会」への応募
- ・日本地球惑星科学連合（JpGU）の2023会合のユニオンセッション「気圏・水圏・地圏にまたがる複合災害」において、気象学会で招待講演の対応予定。
- ・第15回防災学術連携シンポジウム（2023年4月18日予定）「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」（仮案）を開催予定。気象学会として講演発表を行うよう検討を進める。
- ・第16回防災学術連携シンポジウム「関東地震100年企画（タイトル検討中）」（2023年7月8日予定）の開催にあわせて冊子の発行を予定しており、気象学会としても投稿の検討を進める。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年公開気象講演会実施報告、線状降水帯をテーマにオンライン開催で約400名の参加があり活発な議論があった。
- ・気象教育セミナー1月8日（日）実施予定。
- ・気象サイエンスカフェ東京12月3日（土）テーマ「自然災害の激甚化に備えよう～地球温暖化・宇宙天気～」講師：斉田季実治・井田寛子。
- ・各支部の情報収集のために、東京管区气象台から委員が参加。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

- ・日中韓気象学会（ACM）について、次回第3回を中国気象学会のホストで2022年11月24日にオンラインで開催する。

電子情報・・・以下の内容が報告された。

- ・10月1日に会員サイトを更新し、学会ドメインで発行している Google Workspace アカウントでログインできるように改修を行った。
- ・大会や「天気」発刊の前後に Google アカウントのリセット等の要望が多数寄せられている。事務局の負担軽減や、利便性の向上のためセキュリティの向上にも繋がるので、周知を十分に行った上で多要素認証を必須としたい。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年度秋季大会における活動
- ・学会員確保の検討
- ・ポスドクと若手研究者問題
- ・女子中高生夏学へ向けた体制について
- ・男女共同参画学協会連絡会関連

広報委員会設立準備・・・以下の内容が報告された。

- ・広報委員会設立の際に必要な規程類の見直しについて検討を開始した。

#### 4) 理事長報告

- ・5/19に小倉義光先生がご逝去された。「天気」1月号に追悼文を掲載予定。
- ・「未来の学術振興構想」について、今回の公募には今後20～30年先を見通した学術振興の「ビジョン」と、その実現のために今後10年程度で実施することが必要な「学術研究構想」を書く。各提案は、最終的に20～30程度の「グランドビジョン」にとりまとめられる。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023年1月24日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡